



YMCA News

6

2018年6月1日発行
1952年5月13日発刊
(第三種郵便物認可)
毎月1日(月刊定価1部60円)
(購読料はYMCA会費に含まれています)
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 重留まなみ

YMCAキャンプ100周年に向けて (1920年～2020年)



「春が来ると、緑の野原のかなたに、白い花のかすみがかたびき、秋になれば、カシヤカエデやカバが燃えるような紅葉のあやを織りなし、松の緑に映えて目に痛い。丘の森からキツネの吠え声が聞こえ、シカが野原のもやの中を見え隠れつ音もなく駆け抜けた。昔々、初めて人間がここに分け入って家を建て、井戸を掘り、家畜小屋を建てたその時から、自然はこうして姿を見せてきたのだ。ところが、ある時どういう呪いを受けたのか、暗い影があたりにしびれた。今まで見たことも聞いたこともないことが起こりだした。」
(レイチェル・カーソン『沈黙の春』)

アメリカの作家であり海洋生物学者であったレイチェル・カーソン(1907年5月27日～1964年4月14日)は、1962年に刊行された『沈黙の春』で、世界ではじめて環境問題を取り上げました。この著書は、地球環境に対する人々の意識を大きく転換させるきっかけをつくり、のちに「歴史を変えることができた数少ない本の一冊」と称されることになります。当時のアメリカでは化学物質の開発が進み、その危険性が検証されないまま大量に実用化されていました。そのような状況のなかで、役所によって殺虫剤が空中散布された結果、友人の庭にやってきた小鳥が次々と死んでしまうという事件が起こります。鳥たちのさえずりが聞かれなくなった世界、それが「沈黙の春」です。それから50数年経過した現在、多くの海洋生物や渡り鳥がビニール袋やプラスチック製品を喉に詰めて、エサが食べられなくなり命を落としています。本来自然界に存在しないものを多量に放置すると、自然のサイクルが途切れて当然です。なぜ、私たちは同じ過ちを繰り返し、自然の中から大切なことを学ぶことができなかったのでしょうか。

1920年兵庫県大甲山のふもと南郷山において、大阪YMCAが行った「少年義勇団」の野営訓練が日本における最初の教育的意図を持った組織キャンプだと言われています。アメリカキャンプ協会(ACA)によると組織キャンプとは、大自然の環境において、よく訓練された指導者の管理の下に、共同体験する場であると定義されています。YMCAは100年近く、自然の中からの学びを大切にキャンプを続けています。それはレイチェル・カーソンの言葉によると、美しいもの、不思議なもの、神秘的なものを見つけ、喜んだり、驚いたりする「感じるところ」を育てようとしているのではないのでしょうか。子どもの頃は誰もが豊かに持っている「感じるところ」。大人たちは誰もが「子どもたちに豊かに育てほしい」と言います。でも、大人たちは、子どもたちと感動を分かち合うようにしているのでしょうか。

人工物に夢中になって自然から遠ざかったり、自然に触れても知識を身につけることに気をとられ「感じる」ことをしなくなっているのではないのでしょうか。大切なのは、まず「感じるところ」を育み、輝かせること。そのために、美しさ、神秘さにあふれる自然に入ってみることが必要です。

1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災、2016年熊本地震。私たちは偉大な自然の力の前では無力であることを何度も思い知らされました。しかし、苦境の中にありながらもその度に希望を持って立ち上がってきたことも事実です。その時に役立った経験は、まさにキャンプで培われた「生きる力」であり、共同体験でありました。私たちが大切にしてきたキャンプ活動。私たちには、未来を託すすべての子どもたちを自然の中に送り出す責任があります。次のような希望を持って。

「子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感性をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない“センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目をみはる感性”を授けてほしいとたのむでしょう。」
(レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』)

ぶどうの木

キリストへつながる旅路

金城学院中学校宗教主事 後藤田 典子

「これはアダムの系図の書である。神は人を創造された日、神に似せてこれを造られ、男と女に創造された。創造の日に、彼らを祝福されて、人と名付けられた。アダムは130歳になったとき、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた。アダムはその子をセトと名付けた。アダムは、セトが生まれた後800年生きて、息子や娘をもうけた。アダムは930年生きて、そして死んだ。」 創世記5：1-7 (日本聖書協会・新共同訳聖書より)

聖書はその始めて、最初の人アダムの物語を5章に亘って語る。とは言え、創世記は人間の誕生・蛇の誘惑・失楽園・息子たちの話と展開されているため、彼の物語として一つの枠組みで捉える機会は少ない。それでも聖書は、彼の人生のまとめを5章に載せ、更に(年月の数え方が現在とは異なるかもしれないが)驚くべき長寿を生きたと語っている。

アダムという人は、禁断の木の果を食べて楽園追放となったり、長男

が弟を殺したため殺人犯の父となったり、紆余曲折の人生を送った人物だったと私は思う。長い人生には、聖書にはない様々な出来事があっただろうし、悲喜こもごもの年月を過ごした事だろう。晩年、どのような思いで歩んだ旅路を振り返っただろうか。

やがて、何百年何千年の時空を超え、彼の名は「キリスト」につながる人物として新約聖書に上がる。聖書は、彼が神の祝福した人だったことを改めて示しているのだ。

人生100年と言われる現代。長くなった人生を歩む私達。疲れを覚え、衰えを感じてうな垂れる人も少なくないが、彼と比べれば私達はどの人も「若い年代」の最中である。

アダムの子孫よ、今一度顔を上げ、与えられている旅路を歩み抜こうではないか。

名古屋YMCA使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

お問い合わせ <http://www.ngoymca.com/>

名古屋YMCA	052-757-3331
YMCAこひつじ保育室	052-757-5530
南山ファミリーYMCA	052-831-6968
南山幼稚園	052-831-8271
神沢ファミリーYMCA	052-879-6300
YMCAかみさわ保育園	052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院	052-531-0077

年間聖句

「何事も愛をもって行いなさい」

(コリントの信徒への手紙1 16章14節)

春の日和田リーダートレーニングを実施

5月3日(木)～5日(土)に2泊3日で日和田リーダートレーニングが行われました。

今年も多くの子学生リーダーが集まり、ワイズメンズクラブの皆さん・リーダーOBOG・スタッフと共に過ごす中で、たくさんの学びの時を持つことができました。



初日は、キャンプ場の清掃を行い、夕方からワイズの方々にバーベキューを振舞っていただきました。おいしい食事と共にワイズの方々と交流を深めることができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。その後も、学生リーダーたちとゲームで交流を深め、キャンプソングのトレーニングを行いました。

2日目から本格的なトレーニングが始まり、テント設営の仕方やロープワーク、野外料理などの技術を学びました。私は初めての参加だったため分からないことだらけでしたが、学生リーダーたちに助けをもらいながら学ぶことがたくさんありました。トレーニングを頑張った後のキャンプファイヤーは特に盛り上がり、子どもに戻ったような気分になりました。

3日目は、自然のものだけを使ってかまどを作り、火おこしをしてご飯を炊く作業を1人で行いました。普段の生活では決して経験できないことなので、とてもやりがいがあり、今までにはない達成感を味わうことができました。

この3日間で学んだことや経験したことを、今後子どもたちと楽しくキャンプができるように活かしていきたいと思います。(報告：松永 留依)

YOUNG MAN (Y.M.C.A.)

五月十六日、歌手の西城秀樹さんが天に召されました。YMCAの名前を広く知らしめたのは、まさに彼が歌った一九七八年のヒット曲「YOUNG MAN」でした。歌詞も、「さあ立ち上がれよ」「若いうちは何でもできるさ」等、まさに若者応援ソングであったと思います。

このオリジナル曲は、アメリカ、ヴィレッジ・ピープルの歌った「Y.M.C.A.」。性的マイノリティであった彼らが、「不幸な思いなどする必要はない、YMCAで過ごすのは楽しいぞ」と歌っています。ホモセクシャル(同性愛)に対する理解が十分でなかった時代、YMCAには彼らを受け止める包容力があつたのでしよう。今でこそLGBTという言葉が知られ、様々な形の性的マイ

ノリティの存在が語られていますが、当時は差別と偏見に満ちた社会でありました。

一九七九年、東山荘で行われた第二十二回日本YMCA少年事業リーダー研修会(全少研)に、当時人気絶頂であった西城秀樹さんが飛び入りで参加された記録にあります。この時の主管は、名古屋YMCA。参加者ひとり一人に、最高の思い出を提供されたことと思います。

テレビからは久しぶりにYMCAの歌が繰り返され、若くして脳梗塞で倒れた後、必死にリハビリを続ける西城さんの姿が映し出されています。「格好よく見せる必要がなくなった。ありのままの自分を見てもらうことで、同じ病に苦しむ人を勇気づけることができる」と語られ家族を本当に大切にされている姿が、実に格好良く見えました。秀樹さんとご家族の平安をお祈りいたします。

(名古屋YMCA総主事 中村 隆)

つながる！ひろがる！すきになる！

2018年度リーダー会会長 福原 汐音

リーダー会では、リーダーの野外技術向上とリーダー同士の親睦を目的として、月に一度例会とは別に活動しています。4月はYMCA大会やチャリティーランなどの行事担当や活動している部会の代表を決め、1年間みんなで協力して楽しく進められるように準備をしました。そのあと自己紹介ビン



ゴゲームをしたり、キャンプソングの「にじ」を歌ったりして楽しく過ごしました。5月は愛知こども国で、ダッチオープンを使ってローストビーフ丼やフレンチトーストをつくり、そのあとキャンプソングやゲームをして交流を深めました。キャンプ100周年ということで、今後も野外活動を中

心とした活動をたくさん実施する予定です。

今年度のリーダー会は『つながる！ひろがる！すきになる！』をスローガンとして活動していきます。これは学年や活動している部会に限らず、リーダー全体としてのリーダー同士のつながりや、いろいろな活動を通してワイズの方々、他のYMCAとのつながりを深めて、広げる。そんな自分を、リーダーたちを、スタッフさんたちを、ワイズの方々を、YMCAを好きになる、という意味が込められています。

リーダー会での活動を子どもたちとの活動に生かすことができるようにしていきたいと思っています。至らない点も多くあると思いますが、1年間よろしく願いいたします！



リーダー募集中！ 子どもたちとキャンプをしませんか？

日差しが夏らしくなり、名古屋YMCAでは夏のプログラムの準備がスタートしています。日和田高原キャンプ場では学童キャンプをはじめ、長期・冒険・父と子・ファミリーキャンプを実施予定です。また、立山やひるがの高原、高遠でもキャンプを実施します。キャンプ活動では、YMCAの宝物である多くのボランティアリーダーが関わってくれています。そしてリーダーOBOG、委員の皆さんにもプログラムサポートとして関わっていただきたいと思っています。子どもたちと共に生活し互いに励ましあい、より良い育みの場としてキャンプが行われるために皆さまのご協力をお待ちしています。よろしく願いいたします！



維持会員・ご寄付 感謝

維持会員 (継続)				2018年4月1日～30日			
加藤 明宏	加藤 朱美	小島とよ子	山本 和子	田中 万寿	柴田 勝義	吉田 一誠	吉田 桑子
池野 輝昭	岩瀬 康彦	西村 清	西村 牧子	松居 克巳	鈴木 学	加藤 渡	加藤 瑞恵
太田 全哉	小谷 治郎	小谷 充子	渡邊 信子	黒田 忠嘉	黒田 邦子		
寄付				2018年4月1日～30日			
義井 裕子	義井みどり	義井 誠之	義井 順之	医療法人 うたし会			

ワイズコーナー 6月例会の予定

名古屋	6月12日(火) 19:00～	年度の振り返り、次年度方針の協議会	名古屋 YMCA
名古屋東海	6月14日(木) 18:45～	卓話：「救急医療一急病で困った？救急医療体制」 講師：野口宏氏 (愛知医科大学名誉教授・愛知県救急医療情報センター顧問)	ラ・スース ANN
名古屋南山	6月14日(木) 19:00～	中部部会ホスト・部長支援についての検討	南山ファミリー YMCA
名古屋 グランパス	6月19日(火) 19:00～	引継ぎ例会	名古屋 YMCA

早天祈祷会

6月5日(火)
朝 7:45～8:30
名古屋YMCA
5階チャペル